

市内中学校で入学式

「何事も全力で取り組む」

苦小牧市内の全16中学校
中14校で7日、入学式があ
り、1476人が新たな学
びの場へ第一歩を踏み出
した。式典は、学校規模に
応じて保護者の出席人数を
制限したり、来賓のあいさ
つを割愛したりと新型コロナ
ウィルスの感染対策を講じ
て行われた。

苦小牧東中学校（五十嵐
昭広校長）には81人が入学。

担任教諭から名前を呼ば
れ、起立する新入生117
名。午前9時40分ごろ、苦
小牧東中

五十嵐校長は式辞で、「仲
間の個性との調和を考えな
がらも、自分の色を生かす
ことを忘れず、充実した中
学校生活を送ってほしい」
と語り掛けた。新入生代表
の佐藤風優さん（12）は
「今朝、鏡で自分の制服姿
を見て中学生になった実感
が湧いた。自分で考えて行
動し、何事も全力で取り組
みたい」と誓いの言葉を述
べた。

植苗中は8日、啓北中山
なみ分校は9日に式を行
う。



市内中学校で入学式 新たな学びの第一歩 15

苦小牧市内の中学校14校で7
日、入学式があった。式典は新
型コロナウィルス対策のため規
模が縮小されたが、あどけなさ
の残る新入生たちは元気な姿で
参列した117日午前9時35分ご
ろ、苦小牧東中学校



きょうのニュース

道栄高「駅前キャンパス」本格活用 2

衆院道2区補選 告示まで1週間 3

ワクチン 円滑接種が焦点 5

グラフ 樽前アートフォトコンテスト 9



「中学校でより難しくなる勉強を頑張りたい」と語る生徒＝7日、苫小牧東中学校

新入生 希望 胸に

入学式



祝いの花飾りを着けて校歌に耳を傾ける生徒たち＝7日、苫小牧東中学校

市内小中学校

デジタル教科書試験導入

動画、音声併用も便利

ページ拡大「問題、解きやすい」

苫小牧市内の小中学校は今年度、紙の教科書の中身を電子化し、タブレット端末などに取り込んだ「デジタル教科書」を試験導入している。図や写真を拡大したり、動画、音声を併用したりできるのが特徴。多彩な機能を生かし、児童生徒の理解度や学習意欲を高める授業を展開している。



タブレット上で出題される算数の計算問題に取り組む児童＝ウトナイ小学校



デジタル教科書で英会話の音声や和訳を確認する生徒ら＝東中学校

紙と同じ内容をデータ化し、パソコンやタブレット端末で利用するデジタル教科書。ページの拡大、縮小などはもちろん、画面上へ

の書き込みもできる。市内小中学校では2021年度、文部科学省が全国の学校で展開するデジタル教科書の実証事業の一環で、試験導入されている。

学校によって導入する教科や学年は異なるが市内では小学校23校中5校、中学校16校中12校で1年間実施し、学習効果や課題を見極める。

苫小牧ウトナイ小学校(丹野靖彦校長、児童数876人)は、全学年の算数の授業に導入。5年生は国のGIGAスクール構想に基づき、昨年度1人1台配備されたタブレット端末を使用している。児童たちはそれぞれ数式が並ぶページを見やすいよう場面によって全体を表示したり、一部のみを拡大したりしていた。

紙の教科書に載せ切れない練習問題を出題、自動採点する機能もあり、児童が

すいよう再生速度を調整し、学びを深めていた。せりふを文字で表示することも可能、その際は発音し終えた部分の色が変わって目で追いつきやすい。紙の教科書にはない日本語訳の表示機能もある。

紙屋大助教諭(45)は「映像が単語を推測するヒントにもなる」とデジタル教科書の利点を強調しながら「書くことで、定着する力もある。活用するバランスに気を配っている」と述べた。

デジタル教科書はログイン用のIDやパスワードを使って家庭で使用することもでき、橘虎冨さん(13)は「リスニングの学習に便利。家でも活用したい」と意欲的だった。

市教育委員会は、デジタル教科書の本格導入には、多額の費用が必要なために「国の動きも見ながら、必要性をしっかりと検討したい」と話している。

授業参観を順次再開

クラスごとに分散、広い教室活用

市内小中校コロナ対策徹底で

苫小牧市内の一部の小中学校が、新型コロナウイルス流行のため昨年度は実施を見送った校内での授業参観を再開させている。クラスごとに日時を分けたり、普段よりも広い教室を活用したりと感染対策を徹底。コロナ禍で例年のように足を運ばない中でも、保護者の教育への関心は高く、今年度から「学習通信」の定期発行を決めた学校もある。



保護者たちが見守る中、熱心に授業に臨む生徒たち
13日、苫小牧東中

市内小中学校は昨年、屋外で体育の授業を見る機会を設けたが、校内での保護者参観実施は2年ぶりとなる。

市教育委員会は今年度、必要に応じて分散、パノンを活用したりモート（遠隔）での参観を検討するよう小中学校に通知。最大収容人数を普通教室で40人、体育館は300人程度とし、感染対策を徹底させた上、行うよう求めている。

東中学校（五十嵐昭広校長）は、13～16日に授業参観を実施。昨年8月に新校舎に移転したが、なかなか保護者に校内も披露できず、五十嵐校長は「コロナは、学校と地域を分断させてしまった」と指摘。子どもの姿を通して学校の様子を知ってもらうことは、「家庭との相互理解や信頼関係につながる」と参観日の重要性を説く。

参観は2クラス分の生徒を収容できる多目的教室や体育館といった場所で、クラス単位で時間をずらして実施。13日には2年生86人

の授業参観があったが、「例年を上回る高い参加率だった」と言う。

「学校の様子について話を聞くのと、実際に見るのとでは伝わり方が違ふと思ふ。クラスの明るいところを知ってもらいたかった」と宮崎泰地さん（13）。母の祐子さん（47）も「友達との関係性や先生の雰囲気を知る機会になりよかった」と喜ぶ。

2020年4月に明徳小と統合した錦岡小学校（後藤敏彦校長）でも5月、毎週木曜に授業参観を予定。保護者の都合が付く日を選んで来校してもらおうと、分散を図る。後藤校長は「直接児童たちの様子を見て安心してもらいたい」と話している。

ウテナイ中学校（中川恵介校長）は、23日に参観日を再開予定。学校の取り組みについてより知ってもらえるよう今年度、学習通信「学びの翼」を定期発行することも決めた。中川校長は「紙面について生徒が保護者に説明したり、家庭で話題にしたりする中で、学校での教育をより理解してもらいたい」と期待する。

市内小中校授業参観を順次再開 15



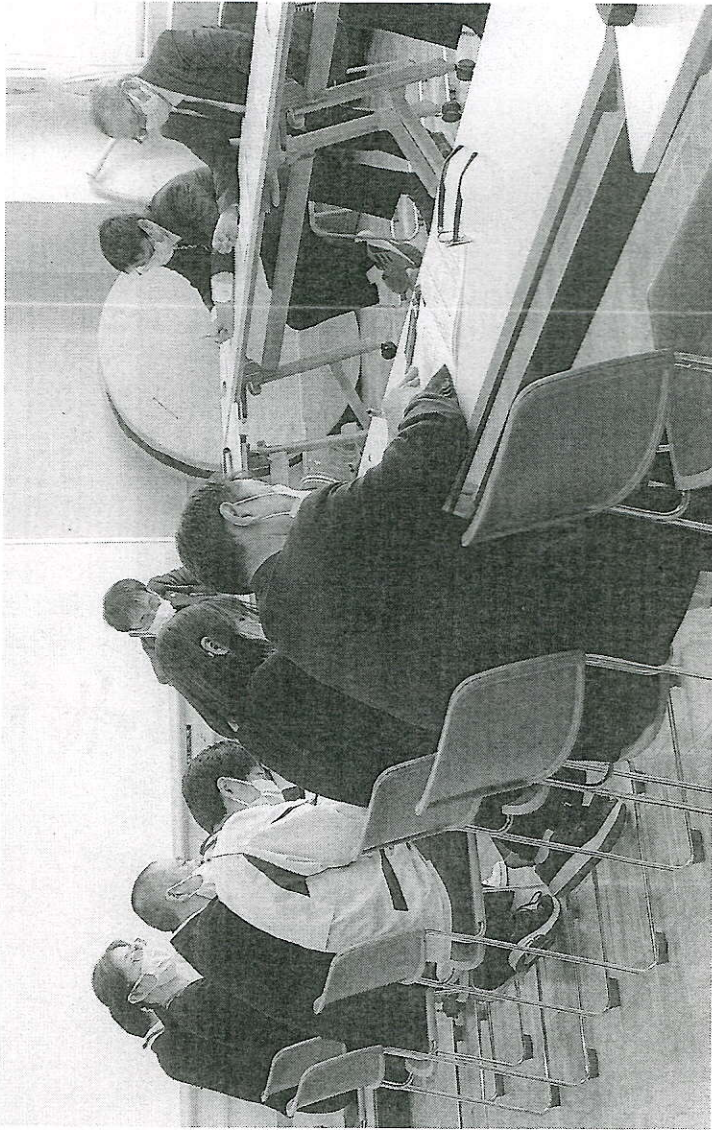
新型コロナウイルス流行のため昨年度は実施を見送った授業参観が、苫小牧市内の一部小中学校で再開されている。昨年8月に移転した苫小牧東中学校は新校舎で初めて実施13日

小中連携の充実を図る

今年度の取り組み計画協議

苫東中校区
エリア会議

苫小牧東中学校区の学校教育力向上エリア会議が21日、同校で開かれた。同校区は、市内の小中学校の中でも小中連携のモデル推進校区。東中、東小、若草小の教員約60人が4部会に分かれ、今年度の取り組み計画について協議した。



今年度の取り組みを話し合う教員たち

同会議は、小中連携の充実を図るため、市内の中学校区ごとに設置されている。「学力向上」特別支援

教育」などの部会があり、校区内小中学校の教師たちが、情報交換をしながら授業や生活指導を進めてい

る。

苫東中校区のエリア会議代表を務める苫東中の五十嵐昭広校長は、新型コロナ

ウイルスの感染拡大を背景に、子どもたちの学びの保障が求められていることから「感染状況に配慮し、少しでも（コロナ流行前の）小中連携の在り方に戻したい」と呼び掛けた。

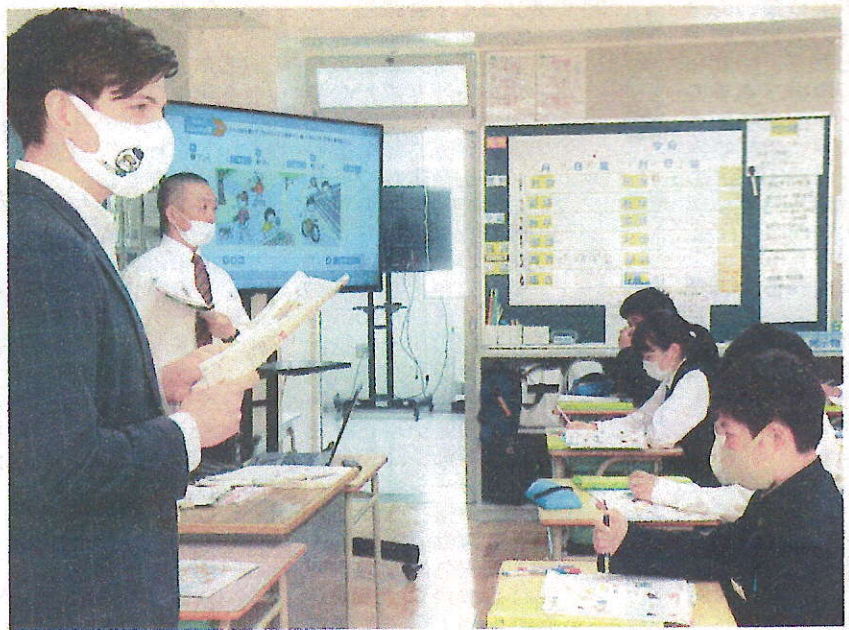
4部会のうち学力向上部

会では、各校共通の視点から授業改善を推進することなどを目標としている。3校で学習の決まりを改善して統一させることや、家庭学習の強化週間の日程をそろえるように検討していくことを話し合った。

ALT増員遅れる

苫小牧市教委

新型コロナ禍の入国制限で



教科書の音読や発音のアドバイスなどを担うALT（手前）

新型コロナウイルス禍に伴う入国制限で、苫小牧市内の小中学校では英語を教えるALT（外国語指導助手）の増員が遅れている。市教育委員会は昨年度、国の外国青年招致事業（JETプログラム）を活用し、ALTを6人から14人に増

やす計画だったが、現時点で1人増の7人にとどまっている。外国語教育のアシスタントとして、教科書の音読や日頃の学校生活の中での交流を通して子どもたちに英語を教えるALT。同市は、1987年から招致してい

る。市教委は小学5、6年の英語教育強化の一環で、昨年9月から市内14中学校区に1人ずつ配置する計画だったが、コロナ禍で新任者が来日を見合わせる状況が継続。ALTの増員は同年8月、十勝管内清水町から

来苦した1人にとどまっている。市教委によると、北海道への緊急事態宣言が解除され、新たなALT2人が今月中にも入国する見通し。実現すれば、東京都内での体調管理や研修を経て2学期から配置したい考えだが、コロナの感染状況によっては、来日延期の可能性もあり、「計画を立てにくい（指導室）」と気をもむ。

苫小牧東学校区には今年度4〜7月、オーストラリア出身のALTテンジン・ベレニさん（28）を配属。今月7日に行われた苫小牧東中1年生の授業では、教科書の音読や発音をアドバイスしていた。温井蓮さん（12）は「外国の人に親しみを持つきっかけになり、英語との距離が縮まっている」と話していた。

同校は昨年度から、ALTによる放課後の英語教室を重ねるなど取り組みを強化している。

元気な声で「おはよう」 東小・中が合同あいさつ運動



苫小牧東小学校（柴田知
日校長）と東中学校（五十
嵐昭広校長）では登校時間
に見童、生徒が合同で玄関
前に立って、「あいさつ運
動キャンペーン」を展開中

玄関前であいさつを行っ
つ児童、生徒

だ。併設校である両校の小
中連携プロジェクト。夏休
み前の21日まで、月、水、

金曜日の週3回行う予定
だ。

これまでも東小の運営委
員会、東中の生徒会がそれ
ぞれ毎日、あいさつ運動に
取り組んできたが小学校と
中学校で玄関が異なるた
め、個別に実施していた。

苫小牧市内では新型コロ
ナウイルスの感染者数が落
ち着いてきたことから、両
校の交流促進などを目的
に、今月4日から夏休みま
での約2週間をキャンペー
ン期間に設定した。

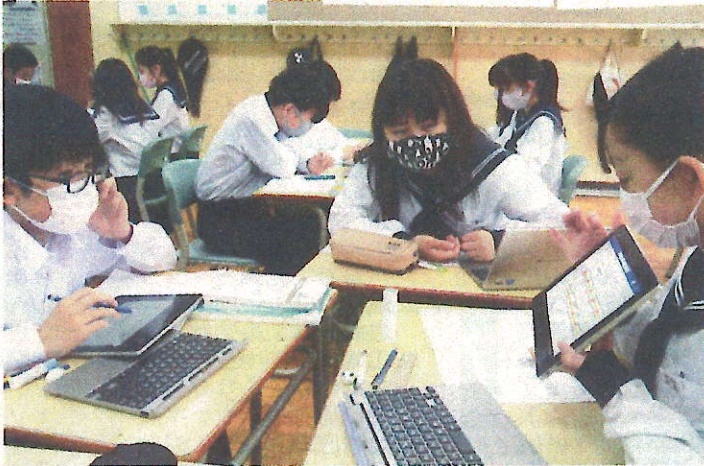
9日は運営委員会、生徒
会に所属する小学4年、中
学3年の15人ほどが両校
の玄関前に約15分間立っ
て、登校してくる児童、生
徒たちに「おはようござい
ます」と元気に呼び掛けた。

東中学校3年の中添裕貴さ
ん（14）は「東中には小学
生と仲良くし、より良い学
校にしたいと願う生徒が多
い。あいさつでつながるこ
とができるば」と力を込め
た。

「問題への理解が進む」「とても便利」と好評

国が推進する「GIGAスクール構想」の一環で、苫小牧市内の小中学校でも授業へのタブレット端末の活用が進んでいる。グループ単位で数学の問題の解き方を考えたり、修学旅行の発表資料を作成したりするのに役立てており、児童、生徒からは「問題への理解が進む」とても便利」などと好評だ。

苫小牧市内の小中学校



タブレットを使って数式の解き方を教え合う生徒たち（啓明中）



タブレット上で作成した資料を示しながら修学旅行の体験発表をする生徒（東中）

すべての小中学生にパソコンやタブレットといった学習用端末を1人1台整備する文部科学省の「GIGAスクール構想」。啓明中学校（奥本政一校長）の1年1組は今年7月、数学の授業で、20個の正方形を作るのに必要なマッチ棒の数を算出する問題を解

「GIGAスクール構想」の一環 タブレット活用中

後、6グループに分かれ、解き方を議論。やりとりの中で画面上に記入した文字

や線は簡単に修正でき、生とめ上げた。従来、資料は徒間で質問したり、教えたりする姿が広がった。担任の田中俊輔教諭（34）は「数学は、得意不得意の差が広がりやすいがクラス内で気軽に話し合い、理解につながる環境をタブレットでつくれる」と期待。大橋心さん（12）は「簡単に文字を書いたり、色分けしたりできるので理解しやすい」と喜ぶ。同校は生徒への授業アンケートもタブレットで行い、効率的に自動集計。ただ、全校一斉にネットを使用することにつながり、校内の職員研修も担当する田中教諭は「学年ごとに実施時間を変えるなど工夫が必要」と課題も指摘した。東中学校（五十嵐昭広校長）の3年生は、岩手県での修学旅行（5月14～16日）の報告資料作りでタブレットを活用。自ら撮影した写真の他、インターネット上で見つけた素材も生かしながら、見学先や特産品を紹介するページを班ごとにま

くのにタブレットを使った。生徒それぞれがタブレットに自らの答えを入力して、6月20日、1年生の前で発表した西屋佑斗さん（14）は「タブレットの操作はなかなか難しいが、伝えたい部分の文字を動かして強調するなど工夫した」と笑顔。1年の平館楓さん（13）は「分かりやすかった」と感心していた。泉野小学校（東峰秀樹校長）の2年生は6月末、算数の習熟度別授業で、タブレットを生かしたミニテストを受けた。児童が苦手とする問題の傾向を探ろうと、教諭が選択式のオリジナル問題を作成。各問の正答率をすぐに把握できる仕組みで、不得意傾向が見られた問題について詳しく解説していた。教務主任の八木俊樹教諭（37）は「二つの授業の中で採点、集計、説明が可能。他の教科にも応用できそう」と手応えを語った。